

No.	2026年度 寝屋川バス 年間教育計画			
-----	---------------------	--	--	--

・旅客事業者の指導・監督内容

予定	項目	実施内容	指導方法	受講終了日
1	事業用自動車を運転する場合の心構え	プロの運転者として安全、確実に乗客を輸送することが社会的使命であるという認識を持たせ交通事故が起きた場合の社会的影響と事業用自動車の運転による他車への影響を理解させる。	バス事故の社会的影響について事故の特徴をデータや事故事例で説明し安全運行及び模範運転の心構えを解説するとともにプロのバス乗務員のあるべき姿を連想させ意識づける。	
2	事業用自動車の運行の安全と旅客の安全を確保する為に遵守すべき基本事項	事業用自動車の運転手にとって遵守すべき法令の規定があり法令の元で日々の業務が遂行されていることについて理解させると共に、関係法令を逸脱した場合の影響やそれともなう事故と運転者に対する処分及び被害者に与える影響について理解を求める。	旅客自動車運送事業運輸規則に係る法令の説明（運行前後の点検・運行前点検等）また運行に関わる法令である道路交通法（アルコール・携帯、スマホ、あおり運転）及び義務を果たさない場合の影響を事例とWEBラーニングを使用して解説する。	
3	事業用自動車の構造上の特性	バスの重量、車高、車長、車幅などから、死角やスピードに影響がある事を認識させ、特性に合わせた運転をする事が必要であることを認識させる。	バスの重量、車高、車長、車幅などについて解説するとともに、より実践的に死角や内輪差、オーバーハングについて実際のバスを用い実技研修で理解を促す。	
4	乗車中の旅客の安全を確保する為に留意すべき事項	「急」のつく運転はしないといった運転を行ったことでの乗客への影響とシートベルト着用義務と安全について理解させる。	発車前車内ミラー確認の励行とシートベルト案内等励行されなかった場合の影響を事例を交えながらの解説、また実車を用い立ち乗りでの微速からのブレーキ操作が乗客に与える影響を体感する。	
5	旅客が乗降する時の安全確保のために留意すべき事項	乗降時の操作等による人や障害物への接触の危険性を認識させ乗降時の乗客の安全の確保と法令を遵守することが必要であること及び生活支援者に係るバス乗降の留意点について理解させる。	乗り心地を考えた発進・停止・加速・減速が乗客の安全に結びつく事を解説、また、高齢者・障がい者の乗降に関するDVDの視聴、WEBラーニング使用し理解させる。	
6	7月から個別受講 主として運行する路線若しくは経路又は営業区域における道路及び交通の状況	運行経路の事前情報収集の重要性の高さを認識させると共に情報を活かし危険のリスクを事前に回避するための留意点を認識させる。また、実地雪上運転研修を取り入れ運転技術向上を図る。	配車地、目的地、降車地、経路における危険個所の発表と共有、交通情報、気象情報等の収集と情報に基づいた対処方法、冬期の積雪路走行訓練（積雪路急制動、急ハンドル、チェーン装着等を含む）	
7	危険の予測及び回避、緊急時における対応方法	危険予知訓練の手法を用いて歩行者や自転車の行動特性及び天候や昼夜における危険の予測並びに回避の方法を理解させると共に必要な技能を習得させていく	危険予知トレーニングDVDの活用と悪天候・夜間走行での危険への配慮を解説すると共に緊急時における適切な対応についてディスカッションや実際に発煙筒、消火器等を用いた実技と緊急制動の訓練を行う。	
8	運転者の運転特性に応じた安全運転	適正診断結果を用いて個々の運転者に自己の運転行動の特性を自覚させ、これを理解した上での安全指導を実施	随時個別対応	
9	交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法	生理的・心理的要因による実際の事故事例を用いて、これらが交通事故につながる重大な要因であることを認識させる。	過労、睡眠不足による生理的要因や運転技能への過信、焦り、など心理的要因が運転に及ぼす影響についてそれぞれの経験と対処方法をディスカッション形式で進めるとともに飲酒、薬物に関してDVD等の視聴を交えて進める。	
10	健康管理の重要性	疾病が要因である交通事故事例や健康診断結果を基に個々の生活習慣の改善を促すと共に健康管理の重要性を理解させる。	座学(WEBラーニング)にて健康管理の重要性を再確認する。健康診断結果をもとに産業医の所見を頂き、結果内容について改善のため個別に面談を行う。	

・貸切旅客事業者の指導・監督内容

予定	項目	実施内容	指導方法	受講終了日
11	7月から随時	安全性の向上を図るための装置を備える貸切バスの適切な運転方法	装置を過信や理解不が原因で事故に至るケースがある事を理解させる。また、運転支援装置の限界とメーカーによる違いを明確にさせる。	運転支援装置の性能への理解不足や過大評価による事故事例をもとに装置の性能を正確に把握し、またメーカーによる違いや車両装備の違いについてDVDの視聴等を取り入れ解説する。
12	7月から随時 8月～9月 1月～2月	ドライブレコーダーの記録を活用したヒヤリ・ハット体験等の自社内での共有	自社事故事例やヒヤリハット映像を視聴し、その内容の周知と改善点・防止策について話し合う	映像を見るだけではなく、参加者自身が考えがお互い意見を出し合うことで、様々な視点から事故に対してアプローチして解決・防止策を考えていく。

・その他

予定	項目	実施内容	指導方法	受講終了日
13	7月から9月	バス運転者の労働時間等の改善の為の基準	労基法や改善基準告示について学ぶ	改善基準告示を中心にWEBラーニングを視聴し内容を理解してもらう。
14	7月から随時	緊急時における対応	車両故障や事故が発生した際の対処方法を確認する	非常口からの脱出方法の確認、非常停止板や発煙筒等の使用方法の確認を行う。
15	7月から随時	地震など大規模災害発生時の対応	巨大地震や集中豪雨、台風等といった災害に遭遇した場合の対処方法を学ぶ	大規模災害が発生した際の考え方や優先行動について確認する。
16	7月から9月 10月から3月	ドライブレコーダー	社外の映像教育資料を使用し、事故やヒヤリ・ハット映像を視聴し事故の防衛意識を高める	WEBラーニングにて映像を公開し、各自で映像を視聴してもらい、事故の要因や運転操作の判断基準等を解答し理解を深めてもらう。
19	夏季	社外運転実技講習	クレフィール湖東での実技講習会への参加	社内より選抜メンバーで参加し、より高度な運転技術習得を目指す。
17	8月から9月	社内運転技術研修	自社の事故発生原因の傾向を把握し、研修で対策を行う	実際に車両を使用し、車庫内において実技形式で行う。
18	1月から2月	冬季雪路研修	実際に雪道を走行し、雪上での運転技術を身につける	積雪地での路上運転の技術向上、注意点の確認、現場でのチェーン脱着を行う。